

# BSCフォローアップシート（年度末評価用）

病院(所属)名:小児保健医療センター

	BSCの当初目標設定内容			年度末 進捗状況				評価・今後の対応 (担当)																																																	
	業績評価指標	数値目標	主なアクションプラン	アクションプラン 取組の有無	アクションプラン実績	数値目標 実績	4段階評価																																																		
顧客の視点	満足な人の割合	外来75% 入院85%	・患者満足度調査の実施・検討、改善	○	アンケート調査実施。	外来74% 入院98%	A	今後とも継続して実施(サービス向上委員会)。																																																	
			・待ち時間調査の実施・分析、改善	○	待ち時間調査実施。			今後とも継続して実施(サービス向上委員会)。																																																	
			・患者さんからの意見・要望内容の検討、改善	○	患者意見箱を各病棟3個所に設置したが特に要望等なし。			要望に応じて対応を行う(サービス向上委員会)																																																	
			・患者さんの苦痛緩和や在宅支援の推進	○	看護外来や在宅に向けた合同カンファレンス等を実施した(看護部) 個別の地域連絡を実施するとともに、地域で小児を扱う訪問看護ステーション・医療機関調査を実施した(保健指導部)			今後とも継続して取り組む(看護部) 毎年調査し小児を扱う訪問看護ステーションを増やしていく(保健指導部)																																																	
	新規医療サービスの利用者数(発達+頭痛)	250人	・新規医療サービスの開発と推進	○	発達障害および頭痛外来を開設(小児科)	524人	A+	小児科齊藤医師(発達)、下村医師(頭痛)分(事務局(医事))																																																	
	外来新患数+新入院数	5,200人	・広報の充実	○	イベント:七夕・夏祭り・アートイベント、クリスマス等。研修:接遇研修。その他:患者意見箱を各病棟3個所に設置。患者満足度調査を実施。	5,043人	B	今後とも継続して年報、広報誌を発行。(広報委員会)																																																	
			・地域連携強化	○	個別の地域連絡を実施するとともに、地域で小児を扱う訪問看護ステーション・医療機関調査を実施した(保健指導部)			毎年調査し小児を扱う訪問看護ステーションを増やしていく(保健指導部)																																																	
	紹介患者数	2,800人	・学会活動活発化、専門資格取得支援	○	学会発表73件、論文発表16件、講演数59件 計148件	2,765人	B	今後とも積極的に学会活動、専門資格の取得を支援する。																																																	
	外部向け研修会開催数	15回	・外部向け研修会の企画・開催の推進	○	研修会開催数 保健指導部13、リハビリ科1	14回	B	今後ともアレルギー、発達相談、遺伝相談等を実施する。																																																	
	広汎性発達障害、 自閉症患者数	1,020人	・広汎性発達障害の診断と指導体制の強化	○	集団心理療法の実施や広汎性発達障害親子グループを設置した。	1,071人	B	親子グループは計画中(保健指導部)																																																	
・「子どもの心の問題」への対応の充実			○	摂食障害児相談支援事業を実施	今後とも研修内容を検討しつつ継続して実施する(療育部)																																																				
財務の視点	経常収支比率	103.0%	・診療報酬請求漏れ、減額等の対策会議定期開催と対策の周知徹底	○	定期的に対策会議を開催した	102.1%	B	医師事務作業補助者のスキルアップ (正規職員の医事事務作業の習得による指導・育成を行っていく) (事務局(医事))																																																	
	医業収支比率	89.9%				89.6%	B																																																		
	給与費/医業収益	61.5%				63.2%	B																																																		
	材料費/医業収益	19.1%	・診療材料購入価格の検討	○	材料委員会で診療材料の購入単価を低減した。	20.1%	B	今後とも定期的に委員会を開催する(診療材料委員会)																																																	
	コストダウン提案数	3件		○	材料委員会で吸引カテーテルやナビロールエブロンなどの見直し提案を検討した。	5件	B	今後、原価管理システムについて検討を進める(事務局(医事))																																																	
	過年度未収金額	170万円	・法的対応の検討 ・訪問督促の実施	◎	法的対応や訪問督促などにより未収金の回収に取り組んだ。	120万円	A+	未収金は着実に減少しており、電話・郵送等により、さらなる未収金の回収に努めていく(事務局(医事))																																																	
内部プロセス の視点	アクシデント(事故)件数 (注)	0件	・医療安全委員会の活動強化 ・院内感染防止対策の徹底	○	医療安全委員会は毎月開催。PDCAサイクルの実施率80%(医療安全委員会) 全職員を対象とした院内感染予防研修会を開催した(院内感染対策委員会)	7件	B+	今後ともPDCAサイクルを継続し、アクシデントの発生予防に努める(医療安全管理委員会)																																																	
	医療安全改善案の実施率	95%以上		○		64%	B+																																																		
	クリティカルパス利用率	100%	・クリティカルパスの推進	◎	パスの利用率100%	100%	A+	パスは十分に利用されている(クリティカルパス委員会)																																																	
	医事での書類発行数	3,600件	・医師事務補助体制加算の取得	○	医師事務作業補助業務として施設基準50:1を届け出した。	3,149件	A+	医師事務作業補助者のスキルアップ (正規職員の医事事務作業の習得による指導・育成を行っていく)(事務局(医事))																																																	
	病床利用率	75%	・新規医療サービスの開発と推進	○	平均在院日数が予想以上に短くなり病床利用率が低下している。	68.8%	B	最低限の目標として70%を目指していく(事務局(総務))																																																	
	平均在院日数	16日	・平均在院日数、病床利用率のモニタリング (病床運営委員会)	○	予想以上に日数が短くなっており、定期的に幹事会で対応を検討している。	13.2日	A	病床利用率と平均在院日数のモニタリングをし、必要時に会議を開催する(事務局(総務))																																																	
	ホームページアクセス数 (月間件数)	5,500件	・広報の充実[再掲] ・地域医療機関への広報活動	△	サーバーをレンタルから自前(成人病センターと共同)に変更した。休診情報を中心にデータの更新をこまめに行った。	-件	-	病院のサイト内の更新状況をチェックし、新しい情報の提供に努める(事務局(総務)) (インターネットのシステム変更により回数把握不能)																																																	
	レセプト返戻件数	380件	・診療報酬請求漏れ、減額等の対策会議定期開催と対策の周知徹底[再掲]	○	PC入力において2人体制によるチェックを導入した。 診療局及び医師と事例の検証・原因分析による対応を実施している。	341件	A	返戻の要因である ・保険証・資格等の確認の徹底 ・レセプト作成における詳記の徹底(事務局(医事))																																																	
	レセプト減点件数	320件				329件	B																																																		
	「今後もこの病院で働きたい」肯定者割合	80%	・職員満足度調査の継続実施と病院運営への反映	◎	回収率81%。評価点平均3.29(昨年比△0.04)。	83%	A+	今後とも継続して実施(事務局(総務))																																																	
	紹介患者数	2,800人	・地域連携強化(再掲)	○	個別の地域連絡を実施するとともに、地域で小児を扱う訪問看護ステーション・医療機関調査を実施した[再掲]	2,765人	B	毎年調査し小児を扱う訪問看護ステーションを増やしていく(保健指導部)																																																	
	逆紹介率	20%	・保健指導部や病棟の活動充実による地域との連携強化 ・訪問看護ステーションとの連携強化	○	看護外来や在宅に向けた合同カンファレンス等を実施した(看護部) 個別の地域連絡を実施するとともに、地域で小児を扱う訪問看護ステーション・医療機関調査を実施した(保健指導部)[再掲]	23.4%	A	今後とも継続して取り組む(看護部) 毎年調査し小児を扱う訪問看護ステーションを増やしていく(保健指導部)[再掲]																																																	
	巡回療育相談事業実施回数	165回	・県内の療育教室への専門スタッフの派遣推進	○	・派遣回数 155回 ・指導児童数: 1,039人	155	B	今後は、療育教室の体制や児童の状況を勘案するとともに、療育部の通園児・外来児の療育と調整を図りながら効果的な派遣となるように努力したい。(療育部)																																																	
学習と成長 の視点	専攻医・研修医の人数	8人	・専門資格取得に向けた教育体制の充実 ・各科カリキュラム作成・改訂	◎	京大からの短期間研修に対応した(整形外科)	12	A+	今後積極的に受入を行う(小児科、整形外科)																																																	
	職員向け研修会開催回数	10回	・職員研修の充実・強化	○	全職員を対象とした研修を9種目15回開催した。	15回	A+	今後とも計画的に実施する(事務局(総務))																																																	
	学会発表数	70回	・学会活動活発化、専門資格取得支援[再掲]	○	<table border="1"> <tr> <td>小児</td><td>整形外科</td><td>眼科</td><td>リハビリ</td><td>放射線</td><td>看護部</td><td>保健</td><td>療育部</td><td>計</td> </tr> <tr> <td>学会発表数</td><td>22</td><td>27</td><td>1</td><td>3</td><td>5</td><td>10</td><td>4</td><td>1</td><td>73</td> </tr> <tr> <td>論文発表数</td><td>6</td><td>5</td><td>0</td><td>2</td><td>0</td><td>3</td><td>0</td><td>0</td><td>16</td> </tr> <tr> <td>講演数</td><td>11</td><td>4</td><td>3</td><td>1</td><td>1</td><td>23</td><td>3</td><td>13</td><td>59</td> </tr> <tr> <td>計</td><td>39</td><td>36</td><td>4</td><td>6</td><td>6</td><td>36</td><td>7</td><td>14</td><td>148</td> </tr> </table>	小児	整形外科	眼科	リハビリ	放射線	看護部	保健	療育部	計	学会発表数	22	27	1	3	5	10	4	1	73	論文発表数	6	5	0	2	0	3	0	0	16	講演数	11	4	3	1	1	23	3	13	59	計	39	36	4	6	6	36	7	14	148	73	A	今後ともキャリアアップを積極的に支援していく(事務局(総務))
	小児	整形外科				眼科	リハビリ	放射線	看護部	保健	療育部	計																																													
	学会発表数	22				27	1	3	5	10	4	1	73																																												
論文発表数	6	5				0	2	0	3	0	0	16																																													
講演数	11	4	3	1	1	23	3	13	59																																																
計	39	36	4	6	6	36	7	14	148																																																
論文発表数	20本	16	B																																																						
講演数	20回	59	A																																																						

(注)事故件数はレベル3b(濃厚な処置や治療を要した場合)以上のものとする。事故とは、過誤・過失の有無にかかわらず医療の全過程で発生する全ての人身事故をいい、これには患者自身の不注意による転倒等も含まれる。